

保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人 愛光福祉会
施設名	富沢自由の星保育園
報告者（役職）	平間 京子（園長）
住所・連絡先	仙台市太白区富田字京ノ中 1 1 6－1（5 8 B—5 1 L）
	☎ 0 2 2－7 9 7－8 8 1 3
	E-mail jiyuhosit@eagle.ocn.ne.jp

○タイトル（保育計画）

奏でよう☆ 自由の星音楽隊♪

○主な助成備品

楽器（太鼓、ドラム、鉄琴、木琴、ハンドベル、グロッケン、カスタネット、シンバル、スズ）、指揮者用衣装

1. 保育計画策定の目的

本園は法人では3か所目となり、2017年4月1日に宮城県仙台市富沢地区に認可保育園として開園しました。現在、開発途中にある地域で、「家族の笑顔が輝く素敵な街づくり」をイメージして開発が進められています。保育園の周囲には、福祉エリア、医療エリア、商業エリアとして開発がどんどん進められています。

富沢自由の星保育園では、とても素直で明るい子ども達と共に「生きる力」「思いやりの心」を育てています。あたりまえだけれどとても大切なこととして「小さな作法」というものを掲げ、実践していくことで一人の人間としての基礎を培っています。これは子どもだけではなく大人にも通じるものです。私達大人がしっかりとした手本を見せることで「子どもの心」が育つと考えています。また、日頃から気を付けていることのひとつとして、子どもだからという理由で興味や関心の幅を狭めてしまったり、大人の都合や価値観を押し付けたりすることがないようにしています。だからこそ、想像力や感性を磨くことができるような保育内容や環境を作ることが心掛けています。感じたことや考えたことを表現していく中で豊かな感性を育むことが出来るようにと考えています。

それを実現させるためにも、今回「自由の星音楽隊」を結成し、音楽を通して豊かな感性を育んだり、表現する楽しさを味わったりしていくことを目的とし、様々な取り組みを行うことにしました。子ども達が音を出したり音色を聞いたりすることで、音の違いに気付き、音色の美しさを感じたりすることが期待されます。また、本物の楽器に触れることで興味や関心の幅が広がっていき、子ども達の心が豊かになっていくことも予想されます。そして、音を合わせて演奏することで友達との関わりを深めることもできます。この

ような姿が期待される活動を展開したいと考え、保育の中で楽器を取り入れたいと考えました。

2. 具体的な実施内容

～日々の保育の中で～

未満児の保育では、保育士が楽器を見せると、初めて出会う楽器に興味津々の様子でした。スズ、カスタネット、タンバリンなどを用いて保育士が様々な音を奏でると、じっくり聞き入っており、“自分もやってみたい”と楽器に手を伸ばす子もいました。そこで、子ども達自身が楽器を使う機会を設けると大変喜んでおり、スズやカスタネットなどを使った活動を繰り返し楽しんでいました。以上児は、楽器による音色の違いや音の出し方の違いに気付いて様々な楽器に触れることを喜び、リズムを刻んだり音の強弱をつけたりして活動の幅を広げていきました。音に高低があることにも気付き、音から連想されることを言葉で表現することを自発的に楽しむ姿が見られました。



～プロの音楽家との出会い～

10月には保育園にプロの音楽家を招いて演奏を聴く機会がありました。日頃から楽器に親しんでいたからこそ、より楽器というものに興味を示す姿が多く見られ、アンサンブルの演奏を聴いたり、音楽に合わせて合唱したりする経験をしたことで心地良い一体感を味わい、友達と協力して音楽を奏でることに対する興味も深まりました。



～感動のステージへ～

12 月には、ファンタジア・オブ・リバティ（生活発表会）という保育園の行事を行いました。年に1度行っている行事で、保護者の方にも見に来てもらいます。その中で、4歳児と5歳児が合奏を行いました。大太鼓や小太鼓、ウッドブロックなどを用いて、和風の曲に挑戦しました。活動を通して、体に響く振動を感じたり友達と心を通わせる楽しさを味わったりしてきました。一生懸命取り組んできた姿を大勢の観客の方々に見てもらえたことは、子ども達にとって大きな喜びと自信に繋がったことと思います。



3. その成果と評価

0歳児に関しては、視覚的・聴覚的な感覚を養いたいと考えていたため、振ると揺れて視覚的にも楽しめる楽器（スズやタンバリンなど）を中心に扱っていきました。やさしい音色は聴覚的にも心地良かったようで、保育士が楽器を見せると目を輝かせて喜ぶ姿が見られました。子ども達が触ったり叩いたりして音を奏でる機会を設けると、一段と音への興味が広がったように思います。1・2歳児に関しては、子ども達自身が好きな楽器を選んで奏でる機会を設けました。何度も繰り返し鳴らして音を楽しんでいました。3歳児は、楽器の名前を覚えたり楽器の音色の違いを楽しんだりしていました。聞こえた音を言葉で表現することを楽しむ姿が見られ、私たちが想像していた以上に豊かな語彙力の獲得にも繋がったように思います。4・5歳児は、音楽に合わせてリズムを刻むことや、友達と一緒に演奏することの楽しみを見出したようです。楽器との出会いを通して子ども達は音楽や楽器への関心が高まり、豊かな感性を育みました。また、友達と協力して大勢で演奏した時の迫力に感動したり、皆の前で演奏を披露して自信に繋がったりしたことは、これからの人生にとって大変豊かな経験であったことと思います。

以上の様子から、どの年齢の子ども達も遊びの中で楽しみながら音楽に親しみ、多くの学びが得られたと思います。

4. 今後の課題と展望

保育計画を作成した段階では、全クラス子ども達が年齢や発達に合った活動を継続的に行うことを目的としていましたが、後半はファンタジア・オブ・リバティ（生活発表会）に向けた4・5歳児の取り組みが中心となっていたように思います。その結果、主に低年齢児において、音楽を通して感性を磨くという目標まで達することが難しく、今後はこれまで以上に活動の機会を設け、一段と楽器が身近なものになるよう活動内容を検討する必要があると考えます。これからは、より一層職員間の連携を図りながら子ども達の感性が磨かれる保育環境や活動の場を作っていき、活気あふれる保育ができるような計画を作成していきたいと考えています。

自由の星音楽隊の演奏が園内の枠を超えて地域にも響き渡るように活動の幅を広げるなど無限大の可能性を引き出せるようにしていき、より多くの方に素敵な演奏を届けることができるよう、更なる工夫をしていきたいと思っています。

以上